授業科目		人間の尊厳と	自立	担当教員					髙泉 一生			
(科目ID)				(実務経験)	有	Ø	無		社会福祉士として病	院に勤務		
対象年次•学期	1年・征	 後期		必修·選択区分	必修				単位数	2単位		
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15回				時間数	30時間		
授業目的	「人間」	」の理解を基礎として、	人権尊重や自立の	考え方について理解し、倫理	的課題	夏に対	応する	ための社会	・ 会福祉専門職として(の倫理観や視点を涵養する。		
到達目標		含む)における自立概								を説明できる、③社会福祉(介護 いわりや支援を考えられる、ことを		
テキスト・ 参考図書等	『最新	•介護福祉士養成講座	1 人間の理解 第	2版』介護福祉士養成講座編	集委員	員会「	中央法	規出版				
		評価方法	評価割合(%)					評価基	準			
	試験		%									
評価方法・	レポー	ŀ	40%									
評価基準	小テス		%		ンベーパーの内容および提出状況や、他者との対話、交流、ディスカッションに臨む多 的理解、無条件の肯定的関心、受動的・積極的姿勢など)、教員の問いかけに対する 面する。							
	提出物	7	30%	少て らかのロロコーロー かつ 。								
	その他	1	30%									
履修上の 留意事項	業中、			」 止士、精神保健福祉士)の基盤であり、福祉専門職としてのアイデンティティ形成に大きく影響する科目である。 計画を多数設定するが、常々「この答えで本当に良いのか」と自分自身に問いかけ、より良い答えを追求する姿								
	回数		履修主題						履修内容			
	1	本科目を学ぶにあたっ	って、オリエンテーシ	ョン	人間(の尊厳	と自立	とは				
	2	人間の尊厳			人間(の理解	、生活	の営みの歴	歴史を理解するため	(C		
	3	利用者主体			ICIDH	からIC	F^、β	章害者の権	利に関する条約			
	4	人権思想の潮流とその	の具現化		生存村	雀、社:	会権、b	ニューマニス	ズム、自由権、人権	宣言		
	5	人権や尊厳に関する	日本の諸規定		日本国	国憲法	第13条	:•第25条、	社会福祉法、介護化	呆険法、障害者総合支援法		
	6	社会福祉領域の人権	・理念―戦前の変過	<u> </u>	エリザ	ドベス非	数貧法.	人口論、	社会ダーウィニズム	、COS、セツルメント運動		
履修主題•	7	社会福祉領域の人権	・理念―戦中の変過	<u> </u>	パーソナリティの強化、優生思想の政策化							
履修内容	8	社会福祉領域の人権	・理念―戦後の変漫	E —①	子ども	、女性	ŧ, LGI	BT、高齢者	まの人権、貧困問題	·人権問題、公民権運動		
	9	社会福祉領域の人権	・理念―戦後の変過	<u>-</u> 2	バイスティックの7原則、生活モデル、エンパワメント、ノーマライゼーション、シ シャルインクルージョン							
	10	社会福祉領域の人権	・理念―戦後の変過	<u>-</u> 3	QOL,	生命(角理と	冨祉労働				
	11	人権尊重と権利擁護			権利侵害とその背景、権利擁護の視点、アドボカシー							
	12	自立概念の理解			自立の多様性、経済的自立、身体的自立、精神的自立、社会的自立、自立にかかせないもの							
	13	自立支援			残存机	幾能を	活かす	、意欲を高	ぶめる、選択肢を増 り	Þ †		
	14	人の尊厳の保持と自	立、自立支援		尊厳を	を損な [。]	う介護、	尊厳を守	るための介護、尊厳	を守る自立支援		
	15	全体のまとめ			各回の	の振り	返り、3	なめて人間	の尊厳と自立とは			

	_	-
2023	牛	牔

2023年度	専門学校北海道	直福祉•保育大学校	천	t会福祉学科	別紙1
授業科目		担当教員			
(科目ID)		(実務経験)	有☑	無□	
対象年次·学期		担当教員			
授業形態		(実務経験)	有 🗹	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	
		担当教員			
		(実務経験)	有□	無□	

授業科目		人間関係とコミュニー	ケーション	担当教員				渡辺 舞									
(科目ID)				(実務経験)	有□	無											
対象年次·学期	1年•前	ī期		必修·選択区分	必修 単位数 2単位												
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15回			時間数	30時間								
授業目的	心理学	的な側面からの対人理	里解と援助技法を学	び、社会福祉現場で実践でき	会福祉現場で実践できる力を身につける。												
到達目標		と他者を理解し表現する の中でのコミュニケーシ		用することができる。													
テキスト・ 参考図書等	『最新·	介護福祉士養成講座	1人間の理解 第2版	』介護福祉士養成講座編 身	《委員会 中	央法規	出版										
		評価方法	評価割合(%)				評価基	準									
	試験	80%															
評価方法・	レポー	٢	%														
評価基準	小テス	٢	%	試験及び授業内で実施する	業内で実施する演習の参加度、出席課題、授業で使用するプリント提出等の総合評価とす												
	提出物	1	10%														
	その他	ı	10%														
履修上の 留意事項				最終授業の時に提出してもら で理解を深めていきますので.					自ファイル等を準備してください。								
	回数		履修主題					履修内容									
	1	オリエンテーション			履修内容・記	平価に	ついて/自	分と相手を理解する)								
	2	人間と人間関係(1)			自分と他者の	の理解	;私は誰?	・相手を知る									
	3	人間と人間関係(2)			発達心理学	からみ	た人間関係	系;発達段階説と社会	会性の発達								
	4	人間と人間関係(3)			社会心理学	からみ	た人間関係	系;対人認知とグルー	-プ・ダイナミクス								
	5	人間と人間関係(4)			人間関係と	ストレフ	(;ストレス	理論とソーシャルサァ	ぱー ト								
	6	対人関係におけるコミ	ュニケーション(1)		コミュニケー	ション(の基本構造	告;送り手と受け手の	しくみ								
履修主題•	7	対人関係におけるコミ	ュニケーション(2)		コミュニケーションの手段①; 言語的コミュニケーション												
履修内容	8	対人関係におけるコミ	ュニケーション(3)		コミュニケーションの手段②: 非言語的コミュニケーション												
	9	対人援助関係とコミュ	ニケーション(1)		人間関係の発展とコミュニケーション:親密な関係の発達と崩壊							人間関係の発展とコミュニケーション; 親密な関係の発達と崩壊					
	10	対人援助関係とコミュ	ニケーション(2)		対人援助に	おける	基本的態度	度; 受容•共感•傾聴									
	11	対人援助関係とコミュ	ニケーション(3)		援助的人間	関係σ)形成;バイ	′ステックの7つの原見	90								
	12	組織におけるコミュニー	ケーション(1)		組織における	る情報	の流れ;コ	ミュニケーションの構	造								
	13	組織におけるコミュニー	ケーション(2)		組織のおけ	る対立	と協力;社	会的ジレンマ									
	14	組織におけるコミュニケ	ケーション(3)		組織におけん	5⊐ミ <u>-</u>	-ニケーショ	ン;集団討議とリータ	ずーシップ								
	15	まとめ			15回のまと	かとふり	りかえり										

授業科目		高齢者福祉	L.	担当教員				小林 智子				
(科目ID)				(実務経験)	小林 智子 有 ☑ 無 □ 社会福祉士として成年後見に従事							
対象年次・学期	1年・後	 发期		必修·選択区分	必修 単位数 2単位							
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15回			時間数	30時間			
授業目的				を取り巻く社会環境について 切な支援のあり方について学				福祉の発展過程と現	理念、現在、施行されている関連			
到達目標		がなる がなす がなす 援力法を説明		関連諸制度に関する知識や	ソーシャル	ワークの	価値・技術	を用いながら、高齢	計者と家族等の生活を支えるため			
テキスト・参考図書等	『最新	社会福祉士養成講座	至2 高齢者福祉』 [日本ソーシャルワーク教育学	校連盟 中	央法規と	出版					
		評価方法	評価割合(%)				評価基	準				
	試験		80%									
評価方法・	レポー	-	%									
評価基準	小テス	/ +	10%	定期試験結果、授業内小テ います。	ストの結果	、授業で	の積極的	な発言や発言内容を	と総合的に判断して最終評価を行			
	提出物	d d	%									
	その他	<u>b</u>	10%									
履修上の 留意事項	す。分:	からないことは分からない 自でメモを取って下さい。	ヽままにせず、テキスト またノートやプリントの	や参考図書で調べる・教員に質	門用語・知識がたくさんありますが、これは社会福祉士国家試験受験にあたり、基礎となるもので 教員に質問するといった態度で臨んで下さい。板書は行いますが、それ以外にも教員の説明した 必ず行って下さい。現代社会では高齢者に関わる様々な課題が新聞やニュース、テレビ番組等で していきましょう。							
	回数		履修主題					履修内容				
	1	オリエンテーション 育	高齢者と少子高齢社	·会	高齢者の	定義高	齢化の状況	兄				
	2	高齢者の生活実態と	これを取り巻く社会	環境	高齢者の	生活実態	ķ 社会環 ⁵	境				
	3	高齢者福祉の歴史と	理念①		社会福祉	の発達前						
	4	高齢者福祉の歴史と	理念②		第二次世	界大戦後	後の福祉六	法体制の確立				
	5	高齢者福祉の歴史と	理念③		保健福祉 高齢者福			大〜地域包括ケアシ	ノステムの構築			
	6	介護保険制度①					章制度の概 既要①介護	要 保険財政 保険者と	上被保険者 保険料			
履修主題·	7	介護保険制度②			介護保険	制度の概	既要②要介	護認定				
履修内容	8	介護保険制度③			介護保険	制度の概	既要③保険	給付 介護保険事業	業計画			
	9	介護保険制度④			介護保険	制度の概	既要④地域	支援事業 地域包持	舌支援センター			
	10	介護保険制度⑤			サービス作	本系						
	11	高齢者に対する関連	諸制度①		老人福祉	法 高齢	者医療確何	保法 高齢者虐待防	5止法			
	12	高齢者に対する関連	諸制度②		バリアフリー法 高齢者住まい法 高年齢者雇用安定法 育児・介護休業法							
	13	高齢者と家族等の支	援における関係機関	碁と専門職の役割①	関係機関	の役割						
	14	高齢者と家族等の支	援における関係機関	退と専門職の役割②	専門職の	役割						
	15	高齢者と家族等に対	する支援の実際		ソーシャル	- ワーカ-	一の役割	支援の実際				

車門学校北海道福祉 • 保育大学校

社会福祉学科

別紙1

2021年度	导門字仪北海1	且借他"保育 天字校	f]	[宏備仕字科		別紙1
授業科目		担当教員				
(科目ID)		(実務経験)	有 🗹	無□		
対象年次・学期		担当教員				
授業形態		(実務経験)	有 🗹	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有 🏻	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有 🏻	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有 🏻	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有 🏻	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有 🏻	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有 🏻	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有 🏻	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有 🏻	無□		
		•			<u> </u>	

授業科目		介護の基本	I	担当教員						木村 聖	É		
(科目ID)				(実務経験)	有	ď	無		介記	養福祉士として	訪問介護事業所に勤務		
対象年次•学期	1年・通	五年		必修·選択区分	必修 単位数 4単位								
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	30回					時間数	60時間		
授業目的	介護の)基本となる理念や、地	域を基盤とした生活	の継続性を支援するためのし	しくみを	・理解し	、介護	福祉の	専門職	としての能力	」と態度を養う。		
到達目標		人らしい生活を支援する に付ける。	る専門職」として基本	となる考え方や姿勢を学び、	「自立	に向け	た介護	とは何だ	か」を理	里解し、生活3	を援としての介護の役割や専門的能		
テキスト・参考図書等	『最新		4介護の基本Ⅱ 第2	2版』介護福祉士養成講座線 版』介護福祉士養成講座線									
		評価方法	価方法 評価割合(%)										
	試験		60%										
評価方法・	レポー	+	%										
評価基準	小テス		20%	定期試験、小テスト、提出物 に評価します。	、グル・	ープデ	ィスカッ	ションの	の積極的	内な姿勢(発	言、相手の意見への理解)を総合的		
	提出物	D .	10%										
	その他	1	10%										
履修上の 留意事項					習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技 としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。								
	_												
	回数		履修主題							履修内容	F		
		オリエンテーション(木			授業の	の概要	説明			履修内容			
		オリエンテーション(木 教科書 II 第1章介護礼	:村)	力理解①		の概要				履修内容			
	1 2		計)		生活。	とは何ヵ	5 \	び要素、:	生活の				
	1 2	教科書Ⅱ第1章介護福	(村) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の	D理解②	生活の生活の	とは何ったとって	か 二大切な 必要と		の暮らし	特性を理解すると			
	1 2 3 4	教科書Ⅱ第1章介護礼 教科書Ⅱ第1章介護礼	(村) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の	D理解②	生活の生活の介護を	とは何かにとって 福祉を	か :大切な 必要と 必要と	する人の	の暮らし 鈴者の暮	特性 を理解すると 暮らし			
	1 2 3 4	教科書Ⅱ第1章介護福 教科書Ⅱ第1章介護福 教科書Ⅱ第1章介護福	品社を必要とする人の 品社を必要とする人の 品社を必要とする人の 品社を必要とする人の	D理解② D理解④	生活の介護	とは何かにとって福祉を独っている。	かいませんのできます。	する人のする高齢	の暮らし 鈴者の暮	特性 を理解すると			
履修主題・	1 2 3 4 5 6	教科書 II 第1章介護福 教科書 II 第1章介護福 教科書 II 第1章介護福 教科書 II 第1章介護福	は村) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の	D理解② D理解④ D理解⑤	生活の介介では、生活のでは、生には、生には、生には、生には、生には、生には、生には、生には、生には、生に	とは何がにとって福祉を記る。	かというのでは、大切ないのでは、大切ないのでは、大切ないできません。	する人のする高齢する障害	の暮らし 除者の墓 害者の墓 、場合の	特性を理解するというというでは、注意点によって背景、それによっては、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに			
履修主題・ 履修内容	1 2 3 4 5 6	教科書 II 第1章介護福 教科書 II 第1章介護福 教科書 II 第1章介護福 教科書 II 第1章介護福 教科書 II 第1章介護福	は付) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の	D理解② D理解④ D理解⑤ D理解⑥	生活の介介の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人	とは何がにとって福祉を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	か	する人の情する高齢する障害	の暮らし 齢者の暮 害者の暮 、場合の の人らし	特性 を理解すると い い 注意点 い さ の す る し に え こ に え こ に え こ に え こ に さ ら し こ さ ら こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	こいうこと での人らしさの介護福祉における活		
	1 2 3 4 5 6 7	教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和	に対) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の	D理解② D理解④ D理解⑤ D理解⑥	生生介介介の生活には、生活には、生生の分の生活には、生活には、生活には、生活には、生活には、生活には、生活には、生活には、	とは何かにとって福祉を見る。	かい と と と と と と と と と と と と と と と と こ こ さ さ こ こ こ さ さ こ こ こ さ さ こ こ こ さ こ こ こ さ こ こ こ こ さ に こ ご き に こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	する高齢する障害 する障害 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の暮らし 計書の幕 書者の幕 場合の の人らし 切々の生	特性 を理解すると い い 注意点 い さ の す る し に え こ に え こ に え こ に え こ に さ ら し こ さ ら こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	さいうこと その人らしさの介護福祉における活 どこまでこたえるか ・考える「生活のしづらさ」		
	1 2 3 4 5 6 7 8 8	教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和	記村) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の	D理解② D理解③ D理解④ D理解⑤ D理解⑥ D理解⑦ D理解⑦	生生介介介の生活には、生活には、生生の分の生活には、生活には、生活には、生活には、生活には、生活には、生活には、生活には、	とは何がにとって、福福福福祉をを持ちます。	かい と と と と と と と と と と と と と と と と こ こ さ さ こ こ こ さ さ こ こ こ さ さ こ こ こ さ こ こ こ さ こ こ こ こ さ に こ ご き に こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	する高齢する障害 する障害 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の暮らし 計書の幕 書者の幕 場合の の人らし 切々の生	特性 を理解すると 事らし 注意点 こさの背景、そ に活ニーズに。	さいうこと その人らしさの介護福祉における活 どこまでこたえるか ・考える「生活のしづらさ」		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	教科書 II 第1章介護和 教科書 II 第1章介護和	記村) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の	D理解② D理解③ D理解④ D理解⑤ D理解⑥ D理解⑦ D理解⑥	生生介介介の個を用生に生	とは何のでは、ことっては、福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福福	かい と と と と と と と と と と と と と と と と こ こ さ さ こ こ こ さ さ こ こ こ さ さ こ こ こ さ こ こ こ さ こ こ こ こ さ に こ ご き に こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	する高齢する障害 する障害 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の暮らし 計書の幕 書者の幕 場合の の人らし 切々の生	特性 を理解すると 事らし 注意点 こさの背景、そ に活ニーズに。	さいうこと その人らしさの介護福祉における活 どこまでこたえるか ・考える「生活のしづらさ」		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	教科書 II 第1章介護 和 教科書 II 第2章 介護 福祉を必要とする 教科書 II 第2章 分類 科書 II 第2章 分類 科書 II 第2章	記村) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の	D理解② D理解③ D理解④ D理解⑤ D理解⑥ D理解⑦ D理解⑥ CAA①	生生介介介の個そ用生生施施	とは、ことでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	かいて大切がいるというとは何のまった。	する人の前する障害 また	の暮らしず 事者の事 事者の事 場合の の人らし も し う 支援、	特性 を理解すると 事らし 注意点 こさの背景、そ に活ニーズに。	さいうこと その人らしさの介護福祉における活 どこまでこたえるか ・考える「生活のしづらさ」		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	教科書 II 第1章介護 和教科書 II 第2章介護 和教科書 II 第2章介護 福祉を必要とする教科書 II 第2章 教科書 II 第2章	記付) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の	D理解② D理解③ D理解④ D理解⑤ D理解⑥ D理解⑥ D理解⑦ CAA① CAA②	生生介介介個そ用生生施施高	とは、ことでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	かいて大切がいいという。	する人の前書 するででである。 するででである。 するでである。 では、これでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の暮らし事 書者の事 書者の事 場合のの の人の生 も支援、	特性を理解するというでは、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点	さいうこと その人らしさの介護福祉における活 どこまでこたえるか ・考える「生活のしづらさ」		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	教科書 II 第1章介護 和教科書 II 第2章 分護 和書 II 第2章 分養 和書 II 第2章 分養 和書 II 第2章 教科書 II 第2章 P2章 教科書 II 第2章	記付) 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 富祉を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高社を必要とする人の 高人の生活を支えるし る人の生活を支えるし る人の生活を支えるし る人の生活を支えるし	D理解② D理解③ D理解④ D理解⑤ D理解⑥ D理解⑥ D理解⑥ CAA① CAA② CAA③	生生介介介個 そ用生 「生施施高障費	とは、に、福福、福、の、人は、この、人は、この、人は、この、人は、この、の、見、見、者、者、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自、自	かいた大切があるという。 大切が という という という という という という という いっさい こう さいこう かいの ファック かいの アン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	する人の前する はない する 人の前する はままま かい ない かい かい かい カーマ ルーマーマー フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・	の幕らしず の幕舎をある。 の事をある。 の事をある。 の事をある。 には、 の事をある。 には、 の事をある。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	特性を理解するというでは、またのは、またのでは、	さいうこと その人らしさの介護福祉における活 どこまでこたえるか ・考える「生活のしづらさ」		

16	教科書 Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑦	地域連携に関わる機関の理解
17	教科書 II 第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ®	利用者を取り巻く地域連携の実際
18	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方①	自立支援とは
19	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方②	自立支援とエンパワメントの考え方
20	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方③	自立支援とICF(国際生活機能分類)の考え方
21	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方④	介護におけるICFのとらえ方
22	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑤	介護予防の概要
23	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑥	介護予防の種類と特徴
24	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑦	高齢者の身体特性と介護予防
25	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方®	介護予防の実際
26	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑨	自立支援と介護予防
27	教科書 I 第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑩	介護予防における介護福祉士の役割
28	高齢者と薬①	薬の知識
29	高齢者と薬②	薬の使用方法と留意点
30	まとめ	今までの振り返り

授業科目		介護の基本	п	担当教員					立成 みゆき					
(科目ID)				(実務経験)	有	立成 みゆき 有								
対象年次・学期	1年•通	1 年		必修·選択区分	必修				単位数	4単位				
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	30回				時間数	60時間				
授業目的	介護の)基本となる理念や、地	域を基盤とした生活	の継続性を支援するためのし	の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。									
到達目標		人らしい生活を支援する に付ける。	る専門職」として基本	となる考え方や姿勢を学び、	「自立	に向け	た介護	とは何か」	を理解し、生活支援	としての介護の役割や専門的能				
テキスト・ 参考図書等	『最新·		4介護の基本Ⅱ 第2	2版』介護福祉士養成講座絲 2版』介護福祉士養成講座絲										
		評価方法	評価割合(%)					評価基	準					
	試験		60%											
評価方法・	レポー	٢	%											
評価基準	小テス	٢	20%	定期試験、小テスト、提出物 を総合的に評価します。	、総合	的にグ	ルーフ	゚゚ディスカッ	ション時の積極的な	発言や相手の意見を聞く姿勢など				
	提出物	1	10%											
	その他	ļ	10%											
履修上の 留意事項					、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、 る者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。									
	回数		履修主題						履修内容					
	1	教科書 I 第1章 介護	福祉とは①		身近	になった	と介護	サービス						
	2	教科書 I 第1章 介護	福祉とは②		介護	の意味	、見方	、考え方の	変化					
	3	教科書 I 第1章 介護	福祉とは③		介護	問題へ	の対応	、歴史的変	逐遭①					
	4	教科書 I 第1章 介護	福祉とは④		介護	問題へ	の対応	、歴史的変	5遷②					
	5	教科書 I 第1章 介護	福祉とは⑤		介護	サービ	スの歴	史的変遷、	時代背景①					
	6	教科書 I 第1章 介護	福祉とは⑥		介護	サービ	スの歴	史的変遷、	時代背景②					
履修主題•	7	教科書 I 第1章 介護	福祉とは⑦		介護	サービ	スの歴	史的変遷、	時代背景③					
履修内容	8	教科書 I 第1章 介護	福祉とは⑧		介護と医行為、医療的ケアについて									
	9	教科書 I 第1章 介護	福祉とは⑨		介護理念について									
	10	教科書 I 第1章 介護	福祉とは⑩		基本的人権の主体									
	11	教科書 I 第1章 介護	福祉とは⑪		利用者主体の生活支援									
	12	教科書 I 第1章 介護	福祉とは⑫		利用	者の権	利に基	づくサービ	 ス指針					
	13	教科書Ⅱ第3章 感染	対策の基礎		感染	対策、	手洗い	演習、前期	まとめ					
	14	教科書 I 第2章 介護	福祉士の機能と役割		地域	包括ケ	アシス	テムの背景	t					
	15	教科書 I 第2章 介護	福祉士の機能と役割	割②	介護	問題の	背景							

16	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割③	介護予防の視点
17	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割④	災害時支援と災害派遣福祉チーム
18	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割⑤	社会福祉士及び介護福祉士法
19	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割⑥	求められる介護福祉士像
20	教科書 I 第2章 介護福祉士の機能と役割⑦	介護福祉士を支える団体
21	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理
22	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理②	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」①
23	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理③	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」②
24	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理④	日本介護福祉士会倫理綱領①
25	教科書 I 第3章 介護福祉士の倫理⑤	日本介護福祉士会倫理綱領②
26	教科書1第3章 介護福祉士の倫理⑥	倫理について考える演習
27	まとめ	国家試験に挑戦、授業のまとめ
28	教科書 I 第4章第3節介護とリハビリテーション①	リハビリテーションの考え方
29	教科書 I 第4章第3節介護とリハビリテーション②	理学療法の理解
30	教科書 I 第4章第3節介護とリハビリテーション③	作業療法の理解

授業科目		生活支援技術	lÿ I	担当教員				加藤 聖子				
(科目ID)				(実務経験)	有□	無						
対象年次·学期	1年・後	期		必修·選択区分	必修 単位数 1単位							
授業形態	演習			授業回数(1回90分)	15回 時間数 30時間							
授業目的					るよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。 と目的を理解し、様々な場面に応用できる技能を高めることを目標とする。							
到達目標		活に関わる基本の知識 ごス利用者の状態や状		生活に応用させる。 で効率の良い家事支援とその)留意点など(こつい	て説明する	ることができる。				
テキスト・ 参考図書等		・介護福祉士養成講座 ルガイド食品成分表20		第2版』介護福祉士養成講	座編集委員会	会 中	央法規出版	反				
		評価方法	評価割合(%)				評価基	华				
	試験		60%									
評価方法・	レポー	+	%									
評価基準	小テス	۲	10%	定期試験、講義中のミニテス	ミニテスト、提出物から総合的に評価する。							
	提出物	3	30%									
	その他	1	%									
履修上の 留意事項		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							ト、提出物、実習の取組姿勢から			
	回数		履修主題					履修内容				
	1	家庭生活の営み①			食生活の基	本知詞	哉①食文化	、食生活の変化				
	2	家庭生活の営み②			食生活の基	本知詞	哉②栄養 <i>の</i>)理解(炭水化物、脂	質)			
	3	家庭生活の営み③			食生活の基	本知詞	哉③栄養 <i>₫</i>)理解(たんぱく質、無	悪機質、ビタミン)			
	4	家庭生活の営み④			食生活の基	本知詞	哉④献立σ)立て方・食品の購入	と選択			
	5	家庭生活の営み⑤			食生活の基	本知詞	哉⑤高齢者	∱・障がい者の食事と	調理			
	6	家庭生活の営み⑥			食生活の基	本知詞	哉⑥疾患と	食事				
履修主題・	7	家事支援における介護	護技術①		調理実習レ	ポート	の書き方、	実習室の使い方、掃	静除とごみ捨てについて			
履修内容	8	家事支援における介護	護技術②		第1回調理実習 献立に基づく栄養価計算、食品の調理性、技法							
	9	家事支援における介護	護技術③		" 実習・反省 、次回の実習について							
	10	家事支援における介護	護技術④		第2回調理到	習	生活習慣	病予防の食事、食品	品の調理性、技法			
	11	家事支援における介護	護技術⑤				"	実習・反省 、次[回の実習について			
	12	家事支援における介護	護技術⑥		第3回調理実習 高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法							
	13	家事支援における介護	護技術⑦				"	実習・反省 、次[回の実習について			
	14	家事支援における介護	護技術⑧		第4回調理	実習	高齢者・		、食品の調理性、技法			
	15	家事支援における介護					"	実習・反省 、次回	の実習について			

授業科目		生活支援技術	析Ⅱ	担当教員						武内 玲美			
(科目ID)				(実務経験)	有		無						
対象年次・学期	1年•後			必修·選択区分	必修					単位数	1単位		
授業形態	演習			授業回数(1回90分)	15回	30時間							
授業目的	目的と		は、生活支援におけ		・ めの知識・技術を習得することを)意義と目的を理解し、様々な場面								
到達目標				け、生活に応用させることが で効率の良い家事支援とその			つい	て説明	けること	≃ができる。			
テキスト・ 参考図書等	『最新	・介護福祉士養成講座	E6 生活支援技術)	「第2版』 介護福祉士養成訂	嘴座編 集	美委員会	中:	央法規	出版				
		評価方法	評価割合(%)					評価	基準				
	試験		70%										
評価方法・	レポー		%										
評価基準	小テス		%	定期試験、提出物から総合	的に評	価する。							
	提出物	7	30%										
	その他 %												
履修上の 留意事項		・教科書・プリントを使り ・守ること、積極的に授		た行う。定期試験、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出									
	回数		履修主題		履修内容								
	1	生活支援とは何か			生活を理解する視点・生活支援の基本的な考え方								
	2	家庭生活の理解			家庭生活の営みとは 問題演習①								
	3	家庭生活の理解			生活設	計の考え	え方	(家庭旬	管理)				
	4	家庭生活の理解			生活設計の考え方(家庭経済) 問題演習②								
	5	家庭生活の営み			被服生活の基本知識①(被服の機能・被服の管理)								
	6	家庭生活の営み			被服生	活の基本	本知	識②(被服の剥	素材) 問題演	電響③		
履修主題•	7	家庭生活の営み			被服生活の基本知識③(被服の洗濯)								
履修内容	8	家庭生活の営み		被服生活の基本知識④(皮膚の衛生保持・管理) 問題演習④									
	9	家庭生活の営み		被服の裁縫(裁縫の基本①)									
	10	家庭生活の営み		被服の裁縫(裁縫の基本②)									
	11	家事支援における介	護技術		被服の裁縫(裁縫の基本③)								
	12	家事支援における介	護技術		被服の裁縫(裁縫の応用①)								
	13	家事支援における介	護技術		被服の	数縫(裁	縫	逢の応用②)					
					被服の裁縫(裁縫の応用③)								
	14	家事支援における介	護技術		被服の)裁縫(裁	縫	の応用の	3)				

授業科目	生活支援技術Ⅲ			担当教員					山谷 博美			
(科目ID)				(実務経験)	有		無		介護福祉士として介	護老人保健施設に勤務		
対象年次·学期	1年•通	1 年		必修·選択区分	必修				単位数	3単位		
授業形態	演習			授業回数(1回90分)	45回				時間数	90時間		
授業目的	本人主	を体の生活が継続でき ん	るよう、介護を必要。	する対象や様々な場面における根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。								
到達目標				あってもこれまでの生活が継 ↑護を展開できるようになる。		るよう	こ現在	の状態を	把握し、潜在能力を	引き出す『『自立を目指してできる		
テキスト・ 参考図書等				第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版								
		評価方法	評価割合(%)					評価基	基準			
	試験		60%									
評価方法・	レポー	.	5%									
評価基準	小テス	+	10%	その他については、実技達用		の評価	iとする	0				
	提出物	D.	5%									
	その他	1	20%									
履修上の 留意事項	·介護 ·介護	実習室にて演習を行う 技術の基本をマスター	場合「介護技術学内 できるように、繰り返	て参考資料配布・DVD・AR等 引実習の受け方」に従う。 返しの練習とその根拠を知った あるかを確認しながら行って	た上で	行うこ		要となる。	各自の積極性が求る	かられ、授業時間以外においても		
	回数		履修主題						履修内容			
	1	基本となる介護技術と	:は何か(山谷)		生活支援技術を学ぶにあたって							
	2	生活者体験(山谷)			高齢者·片麻痺体験《実技》							
	3	自立に向けた移動の	介護①(工藤)		移動の基礎知識、ボディメカニクスの理解							
	4	自立に向けた移動の	介護②(工藤)		体位変換~上方移動·水平移動~《実技》							
	5	自立に向けた移動の	介護③(工藤)		体位変換~背面法·対面法~《実技》							
	6	自立に向けた移動の	介護④(工藤)		体位変換~仰臥位→端座位→立位~①《実技》							
履修主題•	7	自立に向けた移動の	介護⑤(工藤)		体位変換~仰臥位→端座位→立位~②《実技》							
履修内容	8	自立に向けた移動の	介護⑥(工藤)		体位変換の復習《実技》							
	9	自立に向けた移動の	介護⑦(工藤)		体位3	変換【写	₹技チュ	ニック/振	り返りシート作成】《	実技》		
	10	自立に向けた移動の	介護⑧(橋本)		褥瘡の予防、安楽な体位の保持、車いすの基礎知識《実技》							
	11	自立に向けた移動の	介護⑨(橋本)		ベッド	⇔車し	すの種	多乗①《実	技》			
	12	自立に向けた移動の	介護⑩(橋本)		ベッド	⇔車し	すの種	多乗②《実	技》			
	13	自立に向けた移動の	介護⑪(橋本)		ベッド	⇔車し	すの種	多乗③《実	 技》			
	14	自立に向けた移動の			移乗	実技	ニュック	/振り返り	リシート作成】《実技》	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	15	自立に向けた移動の			屋内の	の車い	す移動	①《実技》	,			

17 自立に向けた移動の介護⑤(山谷) 屋外の車いす移動①《実技》	かて、嚥下
19 自立に向けた食事の介護①(山谷) 食事の基礎知識、具体的支援内容 20 自立に向けた食事の介護②・STとの連携(山谷) 嚥下のメカニズムと嚥下の観察や食事時のポジショニング、トロミにな体操 自立に向けた食事の介護③(山谷) 食事介助の体験①《実技》 22 自立に向けた排泄の介護①(山谷) 排泄の基礎知識~リハビリパンツ体験~ 23 自立に向けた排泄の介護②(山谷) トイレでの排泄介助(リハビリパンツ、尿とりパッド)《実技》	かて、嚥下
20 自立に向けた食事の介護②・STとの連携(山谷) 嚥下のメカニズムと嚥下の観察や食事時のポジショニング、トロミにで体操 21 自立に向けた食事の介護③(山谷) 食事介助の体験①《実技》 22 自立に向けた排泄の介護①(山谷) 排泄の基礎知識~リハビリパンツ体験~ 23 自立に向けた排泄の介護②(山谷) トイレでの排泄介助(リハビリパンツ、尿とりパッド)《実技》	かて、嚥下
20 目立に向けた食事の介護②・SIとの連携(山谷) 体操 (ついて、嚥下
22 自立に向けた排泄の介護①(山谷) 排泄の基礎知識~リハビリパンツ体験~ 23 自立に向けた排泄の介護②(山谷) トイレでの排泄介助(リハビリパンツ、尿とりパッド)《実技》	
23 自立に向けた排泄の介護②(山谷) トイレでの排泄介助(リハビリパンツ、尿とりパッド)《実技》	
24 白立に向けた排泄の介護(③)(山公)	
「日立に門けた財産の月成金(田古)	
25 自立に向けた排泄の介護④(山谷) 紙おむつ①《実技》	
26 自立に向けた排泄の介護⑤(山谷) 紙おむつ②《実技》	
27 自立に向けた排泄の介護⑥(山谷) 排泄【実技チェック/振り返りシート作成】《実技》	
28 自立に向けた排泄の介護⑦(山谷) 立位での紙おむつ、布おむつ《実技》	
29 介護実技試験対策①(山谷) 介護実技試験対策①《実技》	
30 介護実技試験対策②(山谷) 介護実技試験対策②《実技》	
履修内容 31 介護実技試験対策③(山谷) 介護実技試験対策③《実技》	
32 介護実習の振り返り①(山谷) 介護実習の振り返り①《実技》	
33 介護実習の振り返り②(山谷) 介護実習の振り返り②《実技》	
34 自立に向けた移動の介護①(山谷) 杖歩行《実技》	
35 自立に向けた移動の介護⑱(山谷) 様々な移乗方法《実技》	
36 自立に向けた移動の介護(例) (山谷) 福祉用具を用いた介助《実技》	
37 自立に向けた移動の介護⑩(山谷) 日常生活道具を用いた介助《実技》	
38 居住環境の整備①(山谷) 住まいの役割と機能	
39 居住環境の整備②(山谷) 生活空間	
40 居住環境の整備③(山谷) 快適な室内環境	
41 居住環境の整備④(山谷) 安全に暮らすための生活環境	
42 居住環境の整備⑤(山谷) 居住環境の整備における多職種との連携	
43 居住環境の整備⑥(山谷) 居住環境のまとめ	
44 介護福祉士国家試験対策(山谷) 介護福祉士国家試験に向けた模擬問題	
45 まとめ(山谷) 生活支援技術のまとめ	

専門学校北海道福祉・保育大学校

社会福祉学科

別紙1

2022年度	导门子校北海江	且借他"保育大学校	1 1	云仙仙子	P+	別紙1
授業科目	生活支援技術Ⅲ	担当教員	工藤	大暉		
(科目ID)		(実務経験)	有 🗹	無	介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次·学期	1年•通年	担当教員	橋本	: 亮太		
授業形態	演習	(実務経験)	有☑	無	介護福祉士として介護老人福祉施設に勤務	
		担当教員				
		(実務経験)	有□	#		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	#		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	#		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	#		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	#		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		

社会福祉学科

授業科目		生活支援技術	析IV	担当教員						
(科目ID)				(実務経験)	有	Ø	無		介護福祉士として障害	害者支援施設に勤務
対象年次・学期	1年•通	i年		必修·選択区分	必修				単位数	2単位
授業形態	演習			授業回数(1回90分)	30回				時間数	60時間
授業目的	い」や「	目で学ぶ介護技術は、単 障害」等の見える部分の。 得)を目指します。	に介助の方法を学ぶけ みを捉えて支援するの	ごけでなく、その人がこれまでの: ではなく、その人を取り巻く環境	生活習慣(人・物)	で獲得しや周囲と	てき; の関	た様式や個 係(相互作	- 国性に着目して支援する =用)性等を多角的に扱	。 ることの大切さを学びます。また、「老 え、根拠に基づく介護実践(知識と技
到達目標				ることができる。②様々な日常生 ④介助におけるポイントや留意						べることができる。 ③なぜそのように支 。
テキスト・参考図書等				第2版』介護福祉士養成講歷 第2版』介護福祉士養成講歷						
		評価方法	評価割合(%)					評価基	基準	
	試験		50%							
評価方法・	レポー	٢	10%							
評価基準	小テス	٢		定期試験:生活行為の意義・ レポート:課題把握、構成や その他:実技達成状況(30%)	体裁、考	察状況	等を	ルーブリッ		5.
	提出物	1	%							
	その他	l	40%							
履修上の 留意事項	す。③:	介護実習室にて演習を	行う場合「介護技術		ください	、④介i	雙技征	析の習得		な員より口腔ケア講習を受講しま 解した上で繰り返し取り組む姿勢
	回数		履修主題						履修内容	
		基本となる介護技術と		キング①	生活支	接技術	を学ん	ぶにあたっ	履修内容って、ベッドメイキンク	での基礎知識
	1	基本となる介護技術と		キング①						
	1			キング①	シーツ	の畳みだ	5、敷	き方(三:	って、ベッドメイキンク	
	1 2	ベッドメイキング②		キング①	シーツ敷き方	の畳みが	ず、敷	でき方(三)	って、ベッドメイキンク	
	1 2 3	ベッドメイキング② ベッドメイキング③		キング①	シーツ 敷き方	の畳みブ	テ、敷ーナーナーナ	で (三:	って、ベッドメイキンク 角コーナー・四角コー コーナー)②《実技》	
	1 2 3 4 5	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④		キング①	シーツ 敷き方 敷き方	の畳みが	7、敷	- ・四角コ ー ・四角コ ー ・四角コ	って、ベッドメイキンク 角コーナー・四角コー ローナー)②《実技》 ローナー)③《実技》	-ナー)①《実技》
履修主題・	1 2 3 4 5	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④ ベッドメイキング⑤		キング①	シーツ 敷き方 敷き方 ^{敷き方}	の畳みブ (三角コ (三角コ (三角コ	テーナーナーナーナ	-・四角= -・四角= -・四角=	カス、ベッドメイキンク 角コーナー・四角コー ローナー)②《実技》 ローナー)③《実技》 ローナー)④《実技》	-ナー)①《実技》
履修主題· 履修内容	1 2 3 4 5 6	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④ ベッドメイキング⑤ ベッドメイキング⑥	には何か、ベッドメイニ	キング①	シーツ 敷き方 敷き方 、ッドン	の畳みブ (三角コ (三角コ (三角コ	テーナーナーナーデーューデース	-・四角= -・四角= -・四角=	カファン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	-ナー)①《実技》
	1 2 3 4 5 6 7	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④ ベッドメイキング⑤ ベッドメイキング⑥ ベッドメイキング⑥	の介護①	キング①	シーツ 敷き方 敷き方 ベッドン ベッドン 着脱の	の畳みブ (三角コ (三角コ (三角コ パイキング パイキング	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	-・四角= -・四角= -・四角=	カスペッドメイキンク カコーナー・四角コー ローナー)②《実技》 ローナー)③《実技》 ローナー)④《実技》	-ナー)①《実技》
	1 2 3 4 5 6 7 8 8	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④ ベッドメイキング⑤ ベッドメイキング⑥ ベッドメイキング⑥ ベッドメイキング⑦	では何か、ベッドメイニ の介護① の介護②	キング①	シーツ 敷き方 敷き方 へッドン 着脱の 前開き	の畳みブ (三角コ (三角コ パイキング メイキング 基礎知 の衣類の	・ カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	************************************	カファン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	-ナー)①《実技》
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④ ベッドメイキング⑤ ベッドメイキング⑥ ベッドメイキング⑥ ロッドメイキング⑦ 自立に向けた身じたく	の介護① の介護② の介護③	キング①	シーツ教き方方がペッド、着腕関きを	の畳み力 (三角コー(三角コー(三角コー(イキング・イキング・イキング・イキング・イキング・カー) 基礎知 の衣類の着 (カーナーナー ディー 実 一	き方(三: 一・四角: 一・四角: 一・四角: 大、臥床し 技チェック	カファン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	-ナー)①《実技》
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④ ベッドメイキング⑤ ベッドメイキング⑥ ベッドメイキング⑦ 自立に向けた身じたく 自立に向けた身じたく	の介護① の介護② の介護③ の介護④	キング①	シーツカラカラカーが、大きのでは、たらのでは、大きのでは、たらのでは、た	の畳みが(三角コー(三角コー(三角コー(イキング・イイキング・イン・イン・イン・イン・スター)の表類の表類の表類の表類の表類の表類の表類の表類の表類の表類の表類の表類の表類の	ップ・ナーナーラー実 一 第 一 第 一 第 一 第 一 第 一 第 一 第 一 第 一 第 一	を 方(三: ・四角: ・四角: ・四角: ・四角: ・ 世位: ・ 以床し ・ 放床し ・ 放床し ・ 放床し ・ 放床し ・ 放体: ・ 放体: ・ 放体: ・ がんできる。 ・ がんでる。 ・ がんできる。 ・ がんでる。 ・ がんでる。 ・ がんでる。 ・ がんでる。 ・ がんでる。 ・ がんでる。 ・ がんでる。 ・ がんでる。	のて、ベッドメイキンク 角コーナー・四角コー コーナー)②《実技》 コーナー)③《実技》 コーナー)④《実技》 たままでのシーツ交 フ]《実技》	-ナー)①《実技》
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④ ベッドメイキング⑤ ベッドメイキング⑥ ベッドメイキング⑦ 自立に向けた身じたく 自立に向けた身じたく	の介護① の介護② の介護③ の介護④ の介護⑤	キング①	シカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカカ	の畳みが(三角コー(三角コー(三角コー(イキング・イイキング・イオー)の衣類の衣類の衣類のの衣類のの衣類のの衣類のの衣類の	ま、サーナーナー では、	を 方(三: ・四角: ・四角: ・四角: ・四角: ・ 世位: ・ 関係(座位) ・ 関係(座位)	カて、ベッドメイキンク 角コーナー・四角コー コーナー)②《実技》 コーナー)③《実技》 コーナー)④《実技》 が、ままでのシーツ交 フ)【実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》	-ナー)①《実技》
	1 2 3 4 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12	ベッドメイキング② ベッドメイキング③ ベッドメイキング④ ベッドメイキング⑤ ベッドメイキング⑥ ベッドメイキング⑦ 自立に向けた身じたく 自立に向けた身じたく	の介護① の介護② の介護③ の介護⑤ の介護⑥	キング①	シカ数数数べべ着前丸前前日	の畳みが(三角コー(三角コーイキング・イイキング・イイキング・クライン・クライン・クライン・クライン・クライン・クライン・クライン・クライン	ず、 ナーナー・ 丁 「 、	を 方(三: 一・四角 = 一・四角 = 一・四角 = 十、臥床し 技チェック 脱(座位) 脱(原位・臥位) 脱(臥位) 脱(臥位)	カて、ベッドメイキンク 角コーナー・四角コー コーナー)②《実技》 コーナー)③《実技》 コーナー)④《実技》 が、ままでのシーツ交 フ)【実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》 《実技》	-ナー)①《実技》

	16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	全身清拭《実技》
	17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	入浴介助《実技》
	18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	手浴・足浴の介護
	19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	ハンドマッサージ①《実技》
	20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥	ハンドマッサージ②《実技》
	21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦	ハンドマッサージ③《実技》
	22	自立に向けた身じたくの介護⑧	整容(爪・ひげ剃り)の介助《実技》
履修主題· 履修内容	23	自立に向けた身じたくの介護⑨	口腔ケア①《実技》
	24	自立に向けた身じたくの介護⑩	口腔ケア②《実技》
	25	休息と睡眠環境を整える	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
	26	介護技術の振り返り①	介護技術の振り返り《実技》
	27	介護技術の振り返り②	介護技術の振り返り《実技》
	28	介護技術の振り返り③	介護技術の振り返り《実技》【実技チェック/振り返りシートの作成】
	29	介護福祉士国家試験対策①	介護福祉士国家試験対策①
	30	介護福祉士国家試験対策②	介護福祉士国家試験対策②

授業科目		レクリエーション	ン支援	担当教員					長江 孝			
(科目ID)				(実務経験)	有	Ø	無		レクリエーションイン こども共育サポート・			
対象年次·学期	1年•前	前期		必修·選択区分	必修				単位数	1単位		
授業形態	演習			授業回数(1回90分)	15回				時間数	30時間		
授業目的	世界的ます。	りな健康増進の動向の	中で、「心を元気に	する」ためのレクリエーション	支援に	注目	が集め	られている	ます。本演習では、レ	クリエーション支援の基礎を学び		
到達目標			ーションづくりの理論に裏付い ン活動の展開方法」(アイス:						機づけの理論に裏付けられた「自			
テキスト・参考図書等	『楽しる	さをとおした心の元気つ	づくり~レクリエーシ:	ョン支援の理論と方法~』2	公益財	団法ノ	、日本レ	・クリエー:	ション協会			
		評価方法	評価割合(%)					評価	基準			
	試験		%									
評価方法・	レポー		%									
評価基準	小テス	<i>.</i> \-	30%	小テスト・提出物・演習時の	実技・	授業~	の積極	動的な参加	口姿勢(発言や意見な	₹換)を総合的に評価します。		
	提出物	b)	30%									
	その他	<u>b</u>	40%									
履修上の 留意事項		ト・プリントを基に授業 fします。	を展開します。体を	かすレクリエーション活動を中心に行ないますので、動きやすい服装で参加してください。楽しく積極的な参								
	回数		履修主題						履修内容			
	1	オリエンテーション			授業の内容と評価について							
	2	レクリエーション概論		レクリエーションとは?								
	3	レクリエーション支援	の方法		信頼	関係つ	がくりの?	方法・ホス	ピタリティ			
	4	レクリエーション支援	の方法		信頼	関係つ	がくりの? -	方法・ホス	ピタリティ			
	5	レクリエーション支援	の方法		良好	な集団]づくり(の方法アク	イスブレーキングモテ	・ル		
	6	レクリエーション支援	の方法		良好	な集団]づくり(の方法アク	イスブレーキングモテ	・ル		
履修主題•	7	レクリエーション支援	の方法		良好	な集団	づくりく	の方法アイ	イスブレーキングモテ	・ル		
履修内容	8	レクリエーション支援	の方法		自主	的、主	体的に	楽しむカ	を育むレクリエーショ	ン活動の展開方法		
	9	レクリエーション支援	の方法		自主	的、主	体的に	楽しむカ	を育むレクリエーショ	ン活動の展開方法		
	10	レクリエーション支援	の方法		自主	的、主	体的に	楽しむカ	を育むレクリエーショ	ン活動の展開方法		
	11	レクリエーション支援	実習		プログ	ブラム	の立案					
	12	レクリエーション支援	実習		プログ	ブラム	の立案					
	13	レクリエーション支援:	実習		レクリ	ノエー	ション支	援の実施	ī			
	14	レクリエーション支援:	実習		レクリ	ノエー	ション支	援の実施	ī			
	15	レクリエーション支援	実習		まとめ	b	_					

真門学校北海道福祉・保育大学校 社会福祉学科

別紙1

2023年度	导门学仪北海	且借位"保育大学校	在安備化	产科		別紙1
授業科目	レクリエーション支援	担当教員	長江	[集子		
(科目ID)		(実務経験)	有☑	無	レクリエーションインストラクターとして こども共育サポートセンターに勤務	
対象年次·学期	1年•前期	担当教員				
授業形態	演習	(実務経験)	有□	# \square		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有口	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有口	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有口	# \square		
		担当教員				
		(実務経験)	有口	# \square		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	# \square		

授業科目		介護過程の基	基礎	担当教員					宮下 史惠	
(科目ID)				(実務経験)	有		無		介護福祉士として社会	会福祉協議会に勤務
対象年次·学期	1年•前	前期		必修•選択区分	必修				単位数	2単位
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15回				時間数	30時間
授業目的		冨祉士として専門的な身 けった養う。	見地から介護を提供	できるように、対象となる人の)能力	を引き出	出し、本	人主体の	・)生活を地域で継続	・するための介護過程の展開をで
到達目標	介護過	過程の展開を理解し、 が	ト護福祉士として専り	門的な見地から利用者を適り	リに捉.	え、本人	.主体(D介護過	程を展開できるように	こなる。
テキスト・ 参考図書等	『最新	·介護福祉士養成講座	§9 介護過程 第2版	辽』介護福祉士養成講座編 ∮	集委員	会中,	块法規	出版		
		評価方法	評価割合(%)					評価基	- 準	
	試験		70%							
評価方法・	レポー	·F	%							
評価基準	小テス		%	定期試験、提出物、グループ	プワー	クへの参	>加態	度などから	ら総合的に評価を行	う。
	提出物	7	20%							
	その他	1	10%							
履修上の 留意事項										「理解する」、「出来る」講義を進ない。
	めていきます。また、講義内容に沿ったブリント配布があるため、各自でファイルを用意し、ノートやブリントの整理を行ってください。									
	回数		履修主題						履修内容	
		介護過程の意義・目的			介護	過程の意	意義と	目的	履修内容	
	1	介護過程の意義・目的 介護過程の構成要素	的			過程の意			履修内容	
	1 2		的		介護	過程の原	展開∙슄			
	1 2 3	介護過程の構成要素	的		介護:	過程の原	展開・3	全体像 程の関係		
	1 2 3	介護過程の構成要素 介護過程とICF①	的		介護 ICFの ICFを	過程の原う視点と	展開・当	全体像程の関係収集(個)	į.	
	1 2 3 4 5	介護過程の構成要素 介護過程とICF① 介護過程とICF②	的		介護 ICFの ICFを ICFを	過程の別別点と	展開・当介護過ご情報	全体像程の関係収集(個)収集(個)	i (ワーク①)	
履修主題・	1 2 3 4 5 6	介護過程の構成要素 介護過程とICF① 介護過程とICF② 介護過程とICF③	的		介護: ICFを ICFを ICFを	過程の別点と活用した活用した	展開・金	全体像程の関係収集(個)収集(個)	を 【ワーク①) 【ワーク②) レープワーク)	
履修主題・ 履修内容	1 2 3 4 5 6 7	介護過程の構成要素 介護過程とICF① 介護過程とICF② 介護過程とICF③ 介護過程とICF④	k)		介護 ICFの ICFを ICFを	過程の別点とは活用した。活用した活用した	展開・当介護遣「情報」に情報	全体像 程の関係 収集(個) 収集(個)	を 人ワーク①) 人ワーク②) レープワーク) 長)	
	1 2 3 4 5 6 7 8 8	介護過程とICF① 介護過程とICF② 介護過程とICF③ 介護過程とICF④ 介護過程とICF⑤	約		介護 ICFの ICFを ICFを ICFを	過程の別の視点とご話用した活用した	展開・経過機能を表現していた。	全体像 程の関係 収集(個) 収集(個) 収集(グ) 収集(発剤	を 人ワーク①) 人ワーク②) レープワーク) 長)	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	介護過程の構成要素 介護過程とICF① 介護過程とICF② 介護過程とICF③ 介護過程とICF④ 介護過程とICF⑤ アセスメント(情報収集	集)① 集)②		介護 ICFを ICFを ICFを ICFを 情報	過程の別点と活用した活用した活用した活用した	展開・金に情報というには、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	全体像 程の関係 収集(個) 収集(個) 収集(グ) 収集(発乳 マセスメン ーススタ	くワーク①) くワーク②) レープワーク) 長)	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	介護過程の構成要素 介護過程とICF① 介護過程とICF② 介護過程とICF③ 介護過程とICF④ 介護過程とICF⑤ アセスメント(情報収集	集)① 集)② 集)③		介護 ICFを ICFを ICFを ICFを ICFを 情報	過程の別点と活用した活用した活用した活用した。	展開・金には、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大きには、大き	全体像 程の関係 収集(個) 収集(グ) 収集(発剤 マセスメン ーススタ	くワーク①) くワーク②) レープワーク) 長) トの視点 ディの記録方法①)	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 111	介護過程の構成要素 介護過程とICF① 介護過程とICF② 介護過程とICF③ 介護過程とICF④ アセスメント(情報収集 アセスメント(情報収集	集)① 集)② 集)③ 集)④		介護 ICFの ICFを ICFを ICFを 情報 情報	過程の別別では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	展開・台湾を持ていた。 はいまま はいまま はいまま はいまま はいまま はいまま はいまま はいま	全体像 程の関係 収集(個) 収集(グ) 収集(発記 マセスメン ーススタ ーススタ	(ワーク①) (ワーク②) レープワーク) (支) トの視点 ディの記録方法①)	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	介護過程の構成要素 介護過程とICF① 介護過程とICF② 介護過程とICF③ 介護過程とICF④ アセスメント(情報収象 アセスメント(情報収象 アセスメント(情報収象	集)① 集)② 集)③ 集)④		介 ICF ICF ICF ICF ICF 情 情 報 明 事	過程の別別では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	展開・台湾では、大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	全体像 程の関係 収集(個) 収集(グ) マセスメン ーススタ ーススタ の集の個	(ワーク①) (ワーク②) レープワーク) 長) トの視点 ディの記録方法①) ディの記録方法②)	
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	介護過程の構成要素 介護過程とICF① 介護過程とICF② 介護過程とICF③ 介護過程とICF⑤ アセスメント(情報収集 アセスメント(情報収集 アセスメント(情報収集)	集)① 集)② 集)③ 集)④ 集)⑤		介 ICFの ICFを ICFを ICFを ICFを ICFを 報報報例 例	過程の別点と活用した活用した活用した。 はまといれ 収集といれ 検討 (検討 (に)	展開・当選報報報報報・「「情報報」	全体像程の関係 収集(個の関係) 収集(グリッツ、マスタックでは、できる。 マスタックでは、できる。 マスタックでは、できる。 マスタックでは、できる。 マスタックでは、できる。 マスタックでは、できる。 マスタックでは、できる。	(ワーク①) (ワーク②) レープワーク) 長) トの視点 ディの記録方法②) (ワーク①)	

授業科目		介護過程の実	担当教員	高橋 綾							
(科目ID)				(実務経験)	有		無		介護福祉士としてケ	アハウスに勤務	
対象年次•学期	1年・道	五 年		必修·選択区分	必修				単位数	3単位	
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	23回				時間数	45時間	
授業目的	介護福 力を養		也から介護を提供でき	きるように、対象となる人の能	力を引	引き出し	、本人	主体の生	舌を地域で継続する	ための介護過程の展開をできる能	
到達目標	本人σ.)望む生活の実現にむ	けて、生活課題の分	析を行い、根拠に基づく介護	実践を	生伴う誤	題解決	その思考過	程、チームとしてのな	介護過程展開能力を習得する。	
テキスト・参考図書等	『最新	•介護福祉士養成講座	介護福祉士養成講座編集委	委員会	中央	法規出	版				
		評価方法	評価割合(%)					評価基	準		
	試験		60%								
評価方法・	レポー	ŀ	%								
評価基準	小テス	ŀ	%	その他は、提出課題の内容・ 合的に評価します。	や提出	胡限、	授業へ	の取り組み	み姿勢、グループワー	一クや発表への積極的姿勢など総	
	提出物	7	10%								
	その他	1	30%								
履修上の 留意事項				。理解できない場合は質問す する場合があるので、課題の						是供に向けて大切な授業です。授	
	回数		履修主題						履修内容		
	1	介護過程の基礎の振	り返り		介護過程の基礎の振り返り						
	2	アセスメント(解釈・関	連付け・統合化)①		アセスメント(解釈・関連付け・統合化)について						
	3	アセスメント(解釈・関	連付け・統合化)②		事例検討 I (アセスメント・個人演習)						
	4	アセスメント(解釈・関	連付け・統合化)③		事例	検討I	(アセス	スメント・グ	ループワーク)		
	5	アセスメント(解釈・関	連付け・統合化)④		事例検討 I (アセスメント・グループワーク)						
	6	介護計画立案①			介護	介護計画立案について					
履修主題•	7	介護計画立案②			事例	検討I	(介護	計画立案・	個人演習)		
履修内容	8	介護計画立案③			事例	検討I	(介護	計画立案・	グループワーク)		
	9	介護計画立案④			事例検討 I (介護計画立案・グループワーク)						
	10	事例検討			事例	検討Ⅱ	(アセス	スメント)			
	11	事例検討			事例	検討Ⅱ	(アセン	スメント)			
	12	事例検討			事例	検討Ⅱ	(介護	計画立案)			
	13	事例検討			事例	検討Ⅱ	(介護	計画立案)			
	14	事例検討			事例	検討Ⅲ	(自身(の実習事例	別から~個人ワーク(
	15	事例検討			事例	検討Ⅲ	(自身(の実習事例	別から~個人ワーク(2))	

	16	事例検討	事例検討Ⅲ(自身の実習事例から~個人ワーク③)
	17	事例検討	事例検討Ⅲ(自身の実習事例から~個人ワーク④)
	18	介護過程とケアマネジメント①	介護過程とケアマネジメントの関係性
履修主題•	19	介護過程とケアマネジメント②	チームアプローチにおける介護福祉士の役割①
履修内容	20	介護過程とケアマネジメント③	チームアブローチにおける介護福祉士の役割②
	21	国家試験対策模擬問題①	国家試験対策模擬問題①
	22	国家試験対策模擬問題②	国家試験対策模擬問題②
	23	まとめ	介護過程の実践 I まとめ

授業科目		介護総合演習	習 I	担当教員					髙橋 綾	髙橋 綾		
(科目ID)				(実務経験)	有		無		介護福祉士としてケ	アハウスに勤務		
対象年次·学期	1年•通	9年		必修·選択区分	必修				単位数	2単位		
授業形態	演習			授業回数(1回90分)	30回				時間数	60時間		
授業目的		福祉基礎実習及び介護 態度を養う。	福祉実習Iにおける	る事前、事後学習として位置	付け、	実習に	必要な	知識や抗	・ 技術の統合を行うとと	もに、介護観を形成し、専門職と		
到達目標		福祉実習に必要とされる 介護の知識と技術を実			コグラ	ムの計	画や実	践など介	護実践に必要な能	力を身につける。また実習を振り		
テキスト・参考図書等		『最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習·介護実習 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和5年度介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園専門学校北海道福祉·保育大学校										
		評価方法	評価割合(%)					評価基	基準			
	試験		%									
評価方法・	レポー	۲	%									
評価基準	小テス	ŀ	%	課題の内容、提出状況、実	習の進	め方や	記録力	法の理解	解度にて総合的に評	価します。		
	提出物	9	30%									
	その他	1	70%									
履修上の 留意事項				 提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守でお願いします。理解できないままにしておくと介護福祉実習に影響します。不安なく実習に向かえるよう積極的 こ取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。								
	l											
	回数		履修主題						履修内容			
	回数	介護実習の意義と目			介護	実習の	意義と	目的、到	履修内容 達目標、学習区分と	学習内容		
	1	介護実習の意義と目 実習施設の理解①(タ	的(山谷)							学習内容		
	1 2		的(山谷)		介護	福祉基	礎実習	①の事業	達目標、学習区分と			
	1 2	実習施設の理解①(身	的(山谷)		介護	福祉基	礎実習 礎実習	①の事業	達目標、学習区分と 所理解について			
	1 2 3	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身	的(山谷)		介護 「のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	福祉基礎	礎実習 礎実習 成①	①の事業	達目標、学習区分と 所理解について			
	1 2 3	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身 記録物について①(身	的(山谷) 泉) 泉) 泉·高橋)		介護個人個人	福祉基準	礎実習 礎実習 成① 成②、	①の事業	達目標、学習区分と 京所理解について 京所理解について、身	官習目標		
覆修主題・	1 2 3 4 5 6	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身 記録物について①(身 記録物について②(身	的(山谷) 泉) 泉) 泉·高橋)		介護 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	福祉基票の作用	礎実習 成① 成②、 目的、	①の事業	達目標、学習区分と 京所理解について、 京所理解について、身 司意書の作成 と記録方法、実習日	官習目標		
履修主題· 履修内容	1 2 3 4 5 6	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身 記録物について①(身 記録物について②(身	的(山谷) 泉) 泉) 泉・高橋) 泉・高橋)		介護 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	福祉基準票の作用である。	礎実習 成②、 目的、 接遇	①の事業 ①の事業 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		官習目標		
	1 2 3 4 5 6 7 8 8	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身 記録物について①(身 記録物について②(身 記録物について③(身	的(山谷) 泉) 泉) え・高橋) え・高橋)		介 個 個 実 実 外	福祉基票の作用誌ののののののののののののののののののののののののののののののののののの	機実置機実置では、 では、では、では、できます。 では、できます。 では、できます。 では、できます。 では、できます。 では、できます。 では、できます。 では、できます。 できまする。 できるる。 できる。	①の事業 ①の事業 ②約書・同 目標設定 マナー、電		実習目標 誌の練習①		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身 記録物について①(身 記録物について③(身 記録物について③(身 実習心得(泉・高橋)	的(山谷) 泉) 泉) え・高橋) え・高橋) え・高橋)	泉・髙橋・山谷)	介 個 個 実 実 外 外	福祉基票の作用誌のの作品の心得	機大学では では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	①の事業 ①の事業 ②約書・同意を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を		実習目標 誌の練習①		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	実習施設の理解①(身 定習施設の理解②(身 記録物について①(身 記録物について③(身 記録物について③(身 について③(身 について③(身 について③(身 について③(身 について③(身 について③(身 について③(身 について④(の))	的(山谷) 泉) 泉・高橋) え・高橋) え・高橋) え・高橋)		介价個個実実外外実	福祉基標祉基票の作品を必要である。	礎実習 健実習 成の 成。 、 は の 、 は の 、 は の の の に の の の の の の の の の の の の の	①の事業 ①の事業 ②約書・同 目標設定 マナー、電 ン計画作 ン計画作	達目標、学習区分と 所理解について、 等所理解について、身 可意書の作成 と記録方法、実習日 ご話対応 成① 成②、実習日誌の移	実習目標 誌の練習①		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身 記録物について①(身 記録物について③(身 記録物について③(身 大事運営の理解①(7 行事運営の理解②(7 介護福祉基礎実習①	的(山谷) 泉) 泉・高橋) え・高橋) え・高橋) え・高橋) 高橋) 高橋) 高橋) いオリエンテーション(のまとめ(泉・高橋・山		介价個個実実外外実介	福祉基標を表現である。 おいま はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はい	機実習で ででである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	①の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業 ②は、 の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業	主目標、学習区分と 正所理解について、 正所理解について、身 司意書の作成 と記録方法、実習日 電話対応 成① 成②、実習日誌の紹 の確認、提出方法と	実習目標 誌の練習①		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身 記録物について①(身 記録物について③(身 記録物について③(身 実習心得(泉・高橋) 行事運営の理解①(7 介護福祉基礎実習①	的(山谷) 泉) 泉・高橋) え・高橋) え・高橋) 高橋) 高橋) 高橋) 高橋) 高橋) 高橋) 高橋)		介介個個実実外外実介介	福祉基本である。 おいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま は	機実習で でである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	①の事業では、一つの事業である。 できる	達目標、学習区分と 主所理解について、 主所理解について、身 司意書の作成 と記録方法、実習日 言話対応 成① 成②、実習日誌の終 の確認、提出方法と 返り、自己評価	実習目標 誌の練習① 東習② 確認、お礼状		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	実習施設の理解①(身 実習施設の理解②(身 記録物について①(身 記録物について③(身 記録物について③(身 実習心得(泉・高橋) 行事運営の理解①(A 介護福祉基礎実習① 介護福祉基礎実習① 実習施設の理解③(A	的(山谷) 泉) 泉) 泉・高橋) え・高橋) え・高橋) 高橋) 高橋) 高橋) 高橋) 高橋)	谷)	介介個個実実外外実介介介	福祉基準に関いては、「は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	機 実 響 響 で で で で で で で で で で で で で で で で で	①の事業 ②の事業 ②の事業 ②の事業	主目標、学習区分と 主所理解について、 主所理解について、身 司意書の作成 と記録方法、実習日 言話対応 成① 成②、実習日誌の終 の確認、提出方法と 返り、自己評価 主所理解について	実習目標 誌の練習① 棟習② 確認、お礼状		

	16	介護福祉実習Ⅱ報告会(泉·髙橋·山谷)	介護福祉実習Ⅱ報告会に参加
	17	実習施設の理解⑤(髙橋)	介護福祉基礎実習③の事業所理解について
	18	実習施設の理解⑥(髙橋)	介護福祉基礎実習③の事業所理解について、実習目標
	19	介護福祉基礎実習③オリエンテーション(泉・髙橋・山谷)	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	20	介護福祉基礎実習③まとめ(泉・髙橋・山谷)	介護福祉基礎実習③の振り返り、自己評価
	21	実習計画の作成①(山谷)	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成
	22	実習計画の作成②(山谷)	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成
履修主題· 履修内容	23	介護福祉実習 I オリエンテーション(泉・髙橋・山谷)	カンファレンスの目的と記録、実施方法、記録物の提出方法、実習後のスケジュール
	24	介護福祉実習 I まとめ①(泉・髙橋・山谷)	介護福祉実習 I 振り返り①
	25	介護福祉実習 I まとめ②(泉・髙橋・山谷)	介護福祉実習 I 振り返り②
	26	介護福祉実習 I まとめ③(泉・髙橋・山谷)	介護福祉実習 I 振り返り③
	27	介護福祉実習 I 報告会(泉·髙橋·山谷)	介護福祉実習 I 報告会
	28	介護福祉実習 I 後学習①(泉·髙橋·山谷)	自己評価、自己覚知、2年次実習へ向けた課題
	29	介護福祉実習 I 後学習②(髙橋)	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制①
	30	介護福祉実習 I 後学習③(髙橋)	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制②

直門学校北海道福祉 · 保育大学校

2023年度	専門学校北海道	直福祉・保育大学校	社	:会福祉学和	a	別紙1
授業科目 (科目ID)	介護総合演習 I	担当教員	泉	共基		
		(実務経験)	有【】	無□	看護師として病院に勤務	
対象年次·学期	1年•通年	担当教員	山谷	博美		
授業形態	演習	(実務経験)	有 🗹	無□	介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
		担当教員				
		(実務経験)	有口	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無 □		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無□		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	#		
		担当教員				
		(実務経験)	│ │ _有 □	#		